

深井研究室同窓会を終えて

第三期 山本 宗一
田中 将角

深井先生のご退職時に「深井先生を囲む会」の世話をを行った縁もあり、平成22年5月22日(土)に「深井研究室同窓会」を企画実施しました。齊藤好雄先生が3月31日をもつて定年退職され、今年は深井研所属の先生方が全員ご退職された節目の年となるため、同窓会を実施したいものだという話は以前からありました。

研究室時代に諸先生方から受けた御恩は言うに及ばず、社会人になってからも深井先生のご自宅には、パソコンのメンテナンスを口実に?!. 年に一度はお邪魔しご馳走していただいていました。深井先生はご退職後も第一線の研究者として活躍されており、ご自宅にお邪魔させていたたく度に、我々に分かりやすく最先端研究について熱のこもった説明をして下さいます。

今回の同窓会の企画は、そこでの四方山話の中から生まれました。

「同窓会」には渡辺健次先生・齊藤好雄先生の永きにわたるご研究とご指導に感謝するセレモニーを入れていてこうと考えていました。そこに、深井先生たってのご希望により、ご退職後の研究について、深井研究室ゆかりの皆様に説明していく機会を準備することとなりました。深井先生のご退職から早5年、歴代の研究室員が関わった研究が、どのような形で纏め上

げられつつあるのか。「水素誘起空孔の多量生成」を追いかけていた深井研究室終盤の研究室員であった我々としても大いに興味があります。話が弾んでいき、同窓会の組み立てを二部構成で、第一部を「研究近況報告会」・第二部は「懇親会」として別の会場で行うことが決まりました。

会のコンセプトは決まつたものの、実際に企画準備する事はなかなか骨の折れる作業でした。場所や参加費などの制約、案内状の配布など、クリアーワークではなくてはならない案件が沢山ありました。第一部「研究近況報告会」の会場は、杉本先生の厚意により理工学部校舎の6210教室を手配できました。杉本先生には、座長もお引き受けいた



第一部を終えて

平成21年度 理工学部物理学科卒業式

第四期 佐々木 文三

特に元研究室員の連絡把握は困難でした。170名弱に案内の往復はがきを送付しましたが、回答は95名でした。宛先不明も多く、最後まで宛先不明だった方は15名いました。

参加・不参加を問わず、返信はがきの自由通信欄には、近況や当時を懐かしむ書き込みなど心温まるコメントが多数ありました。それらを読んでいると、先生方の人徳が伝わってきました。

準備段階の話ばかりを書いてしまいましたが、次に当日のことを書かせていました。今回は、最終的に50名(内、第一部のみ参加者は4名)の方々に参加していただきました。

白門物理会からも「会報」が渡されました。
その後、稻見先生から、
今年の卒業生には2年から
4年まで量子力学を教え、
皆さんが(好奇心)瞳を

輝かせ受講してくれたおかげで楽しく講義を続けられたこと、オープンキャンバースでは高校生からの質問を3年生に任せたことが評価だったこと、生徒の中に社会人経験者がおり、受け答えが上手で驚いたことなど、一緒に過ごしたことの思い出話をを中心とした祝辞を頂きました。



開式前のなごやかな雰囲気



式の案内

(1) 学卒者
中央大学大学院
他大学大学院
教職関係
民間企業等

23名
5名
8名
26名

(2) 院生
中央大博士課程
教職関係
民間企業等

21名
2名
1名

第一部「研究近況報告会」

第二部「懇親会」

ITS(高
度交通シス
テム)というク
ルマの安全性

と利便性と
を支える情
報技術につ
いて自分が仕
事で関わって
いる部分を

中心に話を
させて頂きま
した。2本

ともあり、か
なり長時間の講演会となり
ました。最後まで熱心に
話を聴いて頂き、大変嬉し
く思いました。

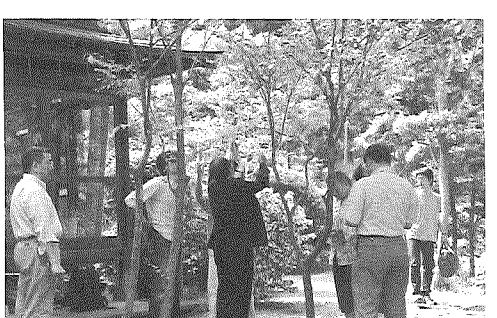
役目を終え、ほっとした
時間が過ぎ、葉山マリーナ
の嬉しさが込み上げて来ま
した。夕陽に染まる小浜海
岸の風景に見惚れている内
に、鎧摺のバス停をうっか
り通り過ぎ、葉山マリーナ
前のバス停まで行って下車

し、坂を登り、葉山寮へと
到着。会が始まるまでの時
間、講演会の準備をしながら、次々に到着していく参
加者と1年振りのご挨拶を
する。今年参加された先生
方は、竹山先生、齊藤先生、
杉本先生、稻見先生でした。
会が始まり、夕食がひと
段落した所で、講演会が始
まりました。まず、7期
鈴木さんが勤められている
会社から、特別ゲストとし
て参加された倉森さんが、
クルマの操縦性を筋電信号
から定量的に評価する研
究について話をされました。
イヤの大切さを実感しまし
た。次に、私がクルマの情
報デザインというテーマで、

詳しく、大きな課題となつ
います。白門物理でも、在
学生の頃から、その存在に
ついて知つてもらつことが
大切だと思います。例えば、
在学生の内から、先生方や
卒業生と食事をしながら話
ができる場を企画し、卒業
後にはこのような会へスムー
ズに参加できるようにして
もらひかもしれません。ま
た、先生方から参加して
くれるような学生に、声を掛

けてもらうことも大切だと
思います。私の場合、稻見
先生からの勧めで参加した
ことが切つ掛けとなり、毎
年参加するようになりました。
これからも会が発展して
いくために、アイデアを
色々と出し合うことが大切
だと思います。

朝のひととき



今回の参加者

門物理会の鶴田会長から、
白門物理会の案内と社会人
としてのメンタルトレーニ
ング(愚痴をこぼさない、
否定的な言葉をはかない、

趣味を持つ、
最後までや
り抜く、手
を抜かない
との話があり
ました。

卒業生か
らは、28名の
方が白門物
理会への参加
希望があり
ましたので、
なつて頂ける
ようにフォローに努めてい
ます。

（1）学卒者
中央大学大学院
他大学大学院
教職関係
民間企業等

23名
5名
8名
26名

（2）院生
中央大博士課程
教職関係
民間企業等

21名
2名
1名



参加者とともに—上海万博会場にて

第三期 鵜田 将
白門江東区支部を中心とした都内白門各支部有志による「上海万博見学・水郷の旅と上海白門支部交流会」が企画され、2010年8月26日から8月29日の4日間に亘り24名のメンバーによる上海の旅が始まった。この企画は中村白門江東区支部長の発案の下、多くの賛同を得て話は白門上海支部交流会へと発展した。交流会をするならと言ふことで久野中央大学理事長兼学員会会长の祝電を携えていざ出発と相成った。初日は成田から出発し、機内で食事を済ませ、上海浦東国際空港に午後1時頃到着した。到着後、最初の

宿泊地である鳥鎮（ウチン）に向けて専用バスで高速道路を利用して約2時間半で現地に到着した。上海の都会から一挙に田舎風の水郷の街に様変わりである。鳥鎮は杭嘉湖平原の中心に位置し、浙江北部にあり、総面積32・8平方キロの湖に囲まれた広大な面積である。中国最後の水上に造られた水郷古鎮で、江南水郷原風景がそのまま残っている素朴で静寂な佇まいの風景である。夕食を湖上のレストランで和やかにこつけられ、水郷ホテルで宿泊した。二日目は鳥鎮の街を船で観光する観光組と、上海でゴルフをする組に分かれ、私はゴルフ組に参加させて頂いた。炎天下の中の

ゴルフとはいって、カート移動であるので比較的プレーの負担は少ない。2年前にも中国福建省でゴルフをしたが、相変わらず、日本と違う

中央大学東京白門合同支部会 上海万博と江南水郷及び 白門上海支部交流会



上海支部との交流会

こうらくえん(12) 近代科学資料館物語学校の薰りを味わう

清水 正

ある。

みどころはまず「計算機」「バスカルの計算機」。それまでは「道具」であつた計算機が「機械」の時代になつた歴史を記すものといえよう。これらのものは機能だけではなく機械としての美しさを充分にもつている。

黎明期のコンピュータ、パラメトロン計算機FACOM201も歴史に残る産業遺産として展示されている。

おや、と思ったのは蓄音機が展示されていること。

ここはエジソンコーナー。な



建物は明治39年建設の校舎を復元したもの

つかしい炭素電球、円盤レコード、真空管、初期のパソコンなど、みごとに科学の歴史が網羅されている。思いでの

P C 9 8 0 1 が

示されていました。

P C 9 8 0 1 が

